



# カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校だより

6月号

令和5年6月 1日

校長 小塚 広司

## 学校教育目標

「自他の生命と人権を尊重し、  
ねばり強くたくましい心豊かな  
児童生徒を育成する」

～世界の架け橋となる子ども  
たちの育成を願って～



## オンリーワン・リオ日学の教育が充実しています

5月27日(土)、日本語を学ぶブラジル人の方々(モデル校)をお招きし交流会を行いました。参加者18名の年齢は6～81歳と幅広く、日本語習得レベルの違いもありましたが、参加した児童生徒・保護者の方々を含め、皆すばらしい笑顔で国境を越えた心温まる時間を過ごすことができました。

アイスブレイクとして、ナンバーコールという自己紹介ゲームに始まり、進化ゲーム(ワカメ→ウニ→さかな→ウサギ→人間→神)では、大人も子どもも夢中になり、マシュマロチャレンジ(パスタ・粘着テープ・マシュマロを使った知恵と協力の競争)では、5～6人組・9班それぞれに分かれてアイデアを出し合い、より高くなるように協力してタワーを作り、アツと間に時間が過ぎていきました。

保護者の皆様に見守られ、子どもたちは安心感の中で生きていきと貴重な体験を積み重ねることができています。

日本と環境は違いますが、リオ日学だからこそのオンリーワンの教育を実現できるように、しっかりと努めています。

### ○全体懇談会(5/16)より 担任の願い

<1・2年生 稲垣教諭>

- 大切にしたい3つのこと
- 1 学習は生活を支え将来につながる大切な事であり、知識(入力)+発表する(出力)ことにより、頭でっかちではない生きた知識を身につける。
  - 2 「つながる仲間」を実現させる。友だちを大切に仲良く協力する。
  - 3 考えて実行できることを大切にする。

<3・4年生 中田教諭>

- 子どもに期待したい事
- ・自分の言いたいことだけしゃべる→仲間に伝える力に変える。
  - ・一步踏み出せない(人の顔をうかがう)→言うべきことをためらわない(トライ&エラー)。

<5年生 藤澤教諭>

- 小学部のリーダーとしての自覚
- ・命 ・時間 ・仲間 ・自分の願い
  - ・役割 ・約束 ・素直さ ・助け合い
  - ・発表する力
- 「賢い日本人」としてグローバルな関係を築き、解決するまで物事を追及する。
- <中学部 下田教諭>
- しっかりした学力をつける。
- ・基礎を繰り返す(少人数のきめ細かな指導による)。
  - ・最近のニュースを知る。
  - ・義務教育が終わったとき、自信をもって進級できる。

### <モデル校交流・閉会式校長の話より>

日本は『麦秋(ばくしゅう)』の季節です。私の出身・埼玉県は、麦が黄金色に秋のごとく実り、季節は夏に向かっていますが古来、麦秋と呼ばれています。また田植えが始まり、遠景に富士山を臨む水田は、夜明けの朝陽に水面が美しく輝いています。

ブラジルの皆さん、言葉を学ぶと同時に日本の季節や風景にも触れ学んでください。

日本の子どもたちは、リオに暮らしながら日本の自然や季節ごとの習慣を大切に、日本人であることとリオ日学に登校していることを誇りに思い、出会った仲間たちを大切にして学校生活を送りましょう。



## ○ オンリーワン・リオ日学の教育

<学び合い=協働学習>



学習指導要領に「主体的・対話的・深い学び」の授業づくりにより生きた学力を身に付けるとあります。中学部家庭科で、体に必要な栄養素と献立について学び合いをしました。理想の献立が完成したら、いよいよ調理実習です！

<総合的な学習の時間>



SDGsについて、3つのグループに分かれて研究テーマを決め、ペープサートによる劇を演じました。この後、サンパウロやマナウス日本人学校とも、オンラインで研究成果を伝えていきたいと計画しています。

<児童生徒代表委員会>



委員長 西原菜南子  
副委員長 稲垣瑛大  
書記 稲垣凜和  
書記 中野成寛

より良い学校生活を送るために、生活目標を定め、学校朝会で発表しています。積極的な意見交換から、実効性の高い目標が生まれます。

<クラブ活動>



左 工作クラブ  
右 運動クラブ  
何を作るか、どんな種類の運動

をするか話し合い、異なる年齢でも楽しめる工夫をして活動しています。

<委員会活動>



左 保健体育委員会

右 文化委員会  
手指消毒液の補

充や、行事に向けての啓発活動など、どんな取組が必要か話し合い、実践しています。

<フレンドタイム>



月に1度の放課後各学年が持ち回りで企画・運営するレクリエーション大会を行っています。今回は小学5年生がつり・ボーリング・宝探しなど、アイデアいっぱいゲームに、みんな大満足です。

## ○日本の伝統に浸る・5月は！



「♪せっせっせいの、よいよいよい～夏も近づく、八十八夜♪」  
1日が終わり、レブロンとフラメンゴに分かれてスクールバスに乗り込む前、体育館に集まってさようならをします。

少しの時間を惜しんで茶摘み歌の手遊びを子どもたちが楽しんでいます。

5月2日の学校朝会で、二十四節季・雑節「八十八夜」を歌いながら説明しました。そのあと、中学部家庭科・保育の授業で、小学部1・2年生に茶摘み歌の手遊びを教えようと取り組んだところ、あっという間にブームになって朝から放課後まで必ずどこかで歌が聞こえてきます。

昔ながらの学校の姿がここに 있습니다。

## ○新聞記事から・言葉の力による成長

NIEタイムが中学部で始まりました。読解力・表現力を身に着けるために、新聞記事とレポーターになった先生の感想を読んで、それらに対する自分の意見を文章にまとめます。金曜日に渡されたレポートを週末に作成して月曜日に提出し、その先生がコメントを記入した後返却します。ある先生は「なぜ勉強するのか悩んで人生案内に投稿した高校生に意見を書こう！」「チャットGPTと教育の問題について、このレポートの要約を書く時、実際にチャットGPTを使って、中学生対象・○文字以内・要約と命令して書いてみた。でも、教師の感想は決してそんなことはしない。あなたは どう思う」など、大人もじっくり考えたいくなります。

「バンド・サカナクションのボーカルが言葉の力を信じて中学生から詩を書いている。あなたは言葉を大切にしているか」という問いかけに対して、一人の生徒は「私は時々詩を書く。コンセプトをしっかりと定めないとぶれてしまう」と書いてくれました。返却されたコメントを食い入るように読んでいる姿を見ると、また何か問いかけたいくなります。言葉の力に支えられ、きっと大きく成長するはずです。

## ○若い？笑顔？サウジアラビアとの交流から

2年前にリオ日学から日本へ帰任した吉村先生が4月からサウジアラビア・ジッダ日本人学校の教師になりました。時差は6時間、リオの朝8時半は向こうの14時半。その縁あって、小学部1・2年生の生活科でオンライン授業を実施しました。お互いの自己紹介、学校生活・町の様子についてのクイズなど、交流が深まります。

30年前、私が赴任した頃30人いた児童生徒は5人と減り、プールは壊れ、気温40度・灼熱のグラウンドで毎日サッカーをやっていたのに、今は冷房の効いた集会室でドッチボール..。用務員のイエメン人・アフメッド（娘のカウサと私の長女は同じ日に産まれた！）は引退したけれど日本人にアラビア語を教えているそうで、画面では会えませんが元気になっているそうで、地球は狭いとうれしくなります。

交流の最後、ジッダの先生が30年前、玄関に飾っていた私の写真を見つけ、画面に大写してくれました。それを見て、リオの先生が思わず「今よりも若いそして笑顔..」とつぶやいたのが聞こえました。若いはいしょうがないとして、笑顔とは？こっちに来てから難しい顔してた？日本の現場で疲れ（やつれ）、笑顔が消えているのなら反省すべきと、これを機会に笑おうかな。